

第32回 JFクラス選手権大会 参戦記

記 J-683池田 成利

コロナに悩ませられ3年ぶりに 皆が集うレースが開催されました。久々のレースは晴天となり、真夏のカンカン照りの中のスタートとなりました。通常、ヒート間隔は 5分で行うとなっていますが 今回の特記として コロナ対策も必要となったが 併せて熱中症の配慮がなされ10分の間隔での運営となりました。参加選手は超がつくベテランばかりですが それが故、若干?年齢層が高い!?私が最年少?例年よりゆっくりペースの運営となりましたが全11ヒートが行われました。各選手暑さ対策を施し挑んでおられました。私も空調服着用で参加しましたが ファンから取り入れられる風が もはや熱気しか入ってこず効果があまり期待できない。しかし着ていないとでは僅かながらでもと思い着用で、身体は何とか暑いながらも発汗が抑えられています。汗かきの私(デブ)にはもはや放せないアイテムになっています。これを持っても暑さをしのげるのは 首から下で 頭部は汗でずぶ濡れ、タオルで汗をふきふき。夕方にはタオルが絞れる程になってしまいました。レース中も頭からの汗が目に入り視界もままなりません。少し話しがズレますが 昔から 「風を感じて乗れ!」と言われたものですが この空調服の冷却システムは 単純空冷でファンで吸い込んだ外気を服の中へ循環させ袖口と襟口から放出しその際 汗等が蒸発する気化熱で涼しく感じるシステムとなっている様です。その排気が露出肌、事に襟首から直接当たり正直 風向が良く判らない。絶えず首から顔に風が吹いている。これは 結構な問題で五感に依存せずもっぱら視覚でのトリムとなってしまいました。これは 他艇より1テンポ遅れてしまう。百戦錬磨の猛者ばかりのエントリーの中、これは結構大きなハンディとなってしまいます。増してや頼る視覚も最年少とはいえ 老の眼でこれもあまり頼りになりません。とは言え持てる知識をフル活用です。前置きが長くなりました。

JFクラスは 造船の自由度が高く多様な艇の走りが楽しめます。今回も 純JF艇の他、超軽量な36/600ベースの艇、リグも コンベンションリグ、スイングリグと多様な組み合わせで各艇得意、不得意な分野があり軽量、コンベンションリグは超微風に強く、強風、波浪に弱い。逆に 純JFに多い重量艇にコンベンションリグの組み合わせは強風で波に強い。 7艇のエントリーの内4艇が36ベースのスイングリグ、3艇が純JF。天気予報通り 朝から風が弱い。軽量の36ベース艇が有利な展開なのか?!純JFに乗る私は他艇より少しドラフト深めのパワーセーリングしか手が無いのか?!これでは上りは期待できなくなってしまう。パワーセーリングヘチューニングしながらもヒールが僅かしかない。風速1m/s程度、ほんのり水面にさざ波が見える程度の微風にトップフィニッシュできぬまま初日は終始悩まされました。 そんな中36ベースでスイングリグでエントリーの艇がしっかりと上位 3艇を宗助艇、池島艇、橋本艇が占め 事に宗助艇が群を抜いていました。その走りは私が登れないのを見切ったかの様に 少し落とし気味でスピードへと振りながらの走りで 付いて行くどころか離されない様にするのが精いっぱい

で全く 歯が立たず 正に戦略負けの様相が濃くなりました。 初日トップの宗助艇とは10ポイント差と絶望的な差が空いてしまいました。 翌日も朝から微風時折 弱風の展開となりましたが 若干の風速増でチューニングを昨日より 伸びの良い仕様でスタートに挑みましたが 昨日より若干風は上がりましたが風向が昨日より南に振り この事により水面の周囲にある防風林の影響を強く受ける事になり 風の振れが大きくなってしまいました。これが顕著なのが 上マークを廻って サイドマークまでのレグでリセットゾーンになってしまいました。スタートし上りで上マークを廻り、フリーでサイドマークを目指すと後続艇に風を奪われ抜かれ去ってしまう イナミフリート魔のレグとなってしまうのです。しかも 操船エリアから一番近い所(目の前)でそれが発生し ジッと堪えなくてはならないところで ジタバタしてしまう「ガマンできない病」が出てしまうのです。 9ヒートにも魔のレグにつかまりそうになりましたが 上マークを廻った直ぐに レイラインからは離れるもののコースを沖に取り何とかリセットされずサイドマークへたどり着き 差を大きく取れトップでフィニッシュできました。このヒートで2位の橋本艇を除きタイムアウトに出来 一気にスコアを縮める事に成功しました。しかしまだトップにはなれていません。昨日のつけが大きくまだ負けています。スコア逆転できたのは最終ヒートでした。

先にも書きましたが JFクラスは 多種多様な艇がエントリーし誰かを参考にする事より自艇の思考を巡らせ その成果を体感出来、他クラスにはない楽しみが大きいクラスです。軽量の36ベース、熟成のIOMベース、専用設計のJF艇と艇種が多く 実は国内でも可能性の高い艇種となっています。Aリグがあれば多くの艇種で参加可能です。今回は西日本艇のエントリーになりましたが 他地域からのエントリーを強く期待します。

とても暑い中、運営をしてくださったボランティアの皆さま、フリートの皆さま本当に有難う御座いました。 とてもスムーズで配慮の行き届いた運営に感謝します。